

大納言等相議被申云、恐可有沙汰、若及遅々者、口何事大事歟、注分所々可守護之由可被仰下歟、良久兼光朝臣又出來、仰左府云、前内大臣宗盛○平、忽巧謀叛赴西海、偷奉具幼主之間、神鏡并劔璽等、累代御物同奉取了、幼主叡慮之中、所察思食也、仍早可有還宮之由、被遣仰時忠卿許了、然而其事輒難達歟、何様可被進止哉、

〔玉海〕壽永二年七月廿五日丁亥、○中及巳刻武士等奉具主上、○安向院地方了、在籠鎮西云々、○中

申刻落武者等又歸京、○中或又奉具主上及劔璽賢所等、欲趣鎮西、而可無臣下、仍爲取具可然之公卿也云々、

〔源平盛衰記 三十一〕平家都落事

去程ニ平家ハ、日頃法皇○後白河ヲモ、西國へ御幸ナシ進セント支度シ給タリケレ共、カク渡ラセ給

子バ、憑ム木本ニ雨ノタマラス心地シテ、去トテハ行幸計成トモ有ベシトテ、卯時ノ終リニ出御

アリ、御輿ヲ指寄ケレバ、主上○安ハイマダ幼キ御齡ナレバ、何心モナク召奉ル、神璽寶劔取具シ

テ、建禮門院○母后平德子御同輿ニ召ル、内侍所モ同ク渡入奉ル、平大納言時忠卿庭上ニ立廻テ、印鑑、時

ノ簡、玄上鈴鹿大床子、河霧御劔以下、九重ノ御具足、一モ取落スベカラズト下知セラレケレ共、人

皆アワテツ、我先ニト出立ケレバ、取落ス物多カリケリ、晝ノ御座ノ御劔モ殘留タリケル

トカヤ、御輿出サセ給ケレバ、内大臣宗盛公父子、平大納言時忠卿父子、藏人頭信基計ゾ、衣冠ニテ

被供奉ケリ、其外ハ公卿殿上人、近衛官、御繩介ノ末ニ至ルマデ、老タルモ若モ皆甲冑ヲ著シ、弓箭

ヲ帶シテ打立ケリ、七條ヲ西へ、朱雀ヲ南へ行幸ナル、唯夢ノ様ナリシ事共也、○又見平家物語

〔愚管抄五〕かゝりける程に七月廿四日○壽永二年○平の夜、事火急になりて、六波羅へ行幸なして、一家の

者どもあつまりて、山科かために大納言頼盛をやりければ、再三辭してけり、○中辰巳午兩三時

ばかりに、やうもなく内○安を具しまゐらせて、内大臣宗盛一族、さながら鳥羽の方へ落て、船に